科目名	国語文法論Ⅰ		担当教員	今井　亨	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JLA403
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、国語科の教育内容に関わる事項について講義する。				
到達目標及びテーマ	（１）通説となっている原則・術語を正確に説明することができる。（知識） （２）通説の原理・問題点を的確に把握することができる。（論点） （３）学問的に有力な論説を知り、究明のヒントにすることができる。（立場・学界動向） 文法論とその周辺領域について				
授業の概要	日本語の文法について、中学校までに習う国文法にもとづく体系を批判的に捉えつつ、文法史や文法学説史、国語科教育や日本語教育の観点から補強する。				

授業計画	
第1回	国語学・国語教育学・日本語教育学の各言語観と文法論
第2回	統語論・品詞論
第3回	文節論（文節の働き・文の成分）
第4回	生け花型構造論
第5回	入子型構造論
第6回	文の階層的構造論
第7回	文の種類
第8回	格・連用修飾（副詞・接続詞・感動詞・格助詞・接続助詞）
第9回	連体修飾
第10回	動詞の活用とその変遷（動詞）
第11回	形容詞・形容動詞の活用とその変遷（形容詞・形容動詞）
第12回	ヴォイス（助動詞）
第13回	テンス・アスペクト（助動詞）
第14回	モダリティ（助動詞・終助詞）
第15回	「は」・とりたて（副助詞）

事前学修	2時間	教科書を読んで、どういう文法的事象が取り上げられているか、国文法ではどういう説明がなされているかを確かめておく。
事後学修	2時間	講義の要点を、教科書等を参考にして、「術語・例・説明」のかたちでまとめる。文法的事項に関して、各校種でどういう学習指導につながるのか、特に「読む」「書く」「話す」「聞く」言語活動にどう生かせるのかを考える。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート作成に関してコメントを述べる。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
レポート	100%	文法的な見方・考え方によって分析・検討できているか。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本語教師をめざす人のためのスモールステップで学ぶ 文法	原沢伊都夫	スリーエーネットワーク	9784883199273	2023年

参考資料	授業中に指示する。

科目名	国語文法論Ⅱ		担当教員	今井　亨	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3JLA404
期待される学修成果	教科教育　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、国語科の教育内容に関わる事項について講義する。				
到達目標及びテーマ	（１）古典文法の基礎的な事項について、体系・原理とともに正しく説明することができる。 （２）付属語を主とした語句の働きをふまえて、表現者の意図に沿って古典文を解釈することができる。 古典文法・解釈法の概説				
授業の概要	文語文を対象にして、句読・品詞分解・現代語訳という文献資料の基礎的読解作業を通して、今日も国語の学習として通用している「読解」や「解釈」という言語活動の規格化の実態を確認しながら、文法を主とした事項について組織的に整理する。授業計画に示した各回の内容に関して、古典の有名章段例をもとに横断的・包括的に解説する。				

授業計画	
第1回	単語・品詞
第2回	用言
第3回	活用形の用法
第4回	受身／使役の助動詞「る・らる／す・さす・しむ」
第5回	打消・希望の助動詞「ず（・じ・まじ)」・「まほし・たし」
第6回	過去／完了の助動詞「き・けり／つ・ぬ・たり・り」
第7回	推量の助動詞（１)「む・らむ・けむ・むず」
第8回	推量の助動詞（２)「まし・べし・じ・まじ」
第9回	推定の助動詞「なり・めり・らし」
第10回	断定・比況の助動詞「なり・たり」・「ごとし・やうなり」
第11回	格助詞・接続助詞
第12回	副助詞・係助詞
第13回	終助詞・副詞
第14回	敬語法
第15回	これからの古典教育、古典文法の可能性

事前学修	2時間	授業で扱う予定の文・文章について、教科書の現代語訳・語注等を読んで、疑問点を明らかにしておく。
事後学修	2時間	授業で取り上げた事項に関して、手持ちの文法テキストや古語辞典の記述を比較するなどして整理する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート作成に関してコメントを述べる。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
レポート	100%	古典文法をふまえて的確に解釈できているか。文法術語を正しく用いて分析・検討できているか。
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
理解しやすい古文	秋山虔	文英堂	978-4-578-24412-7	2022年
参考資料	授業中に指示する。高校の時に使用した古典文法テキスト・古語辞典を持参すること。			